

株式会社SOYOKAZE
未来ビジネス統括部
統括部長

白木 優史



神奈川県 政策局
いのち・未来戦略本部室
参事監
未病推進ディレクター
牧野 義之氏

産学公民連携による 未病改善への取り組み

他の都道府県に先駆け、未病改善に取り組む神奈川県。未病への取り組みと今後の展望についてお伺いしました。

—「未病産業研究会」について教えてください。

未病産業研究会は、未病という概念を普及し産業化を進め、質の高い商品やサービスを迅速に社会に取り入れることを目的に設立されました。実証を通じて効果が認められたものをブランド化し、一定の品質を保証することで、未病産業の発展を支えています。この研究会の特徴は、業種や業態の明確な区分を設けていないことです。異なる分野の交流や共同研究を促すことで、新しいイノベーションを生み出す場を提供しています。日本には優れた技術力があるものの、それを社会に普及させる力が弱いという課題があります。しかしながら、日本には「共に創る」という文化が根付いており、これを活かすことで課題を補い、新たな価値を創出できると考えています。そのため、特定の目的を持った交流だけでなく、日常的な緩やかなつなが

りを築くことを重視しています。こうした背景から、「未病」をテーマに多様な人々に関わることができるネットワークを作り、未病産業研究会を立ち上げ運営してきました。

—マゼラン湘南佐島でも行われている、フィールド実証事業について教えてください。

フィールド実証事業は、未病関連の製品やサービスを試し、その効果を客観的に評価するための仕組みとして生まれました。医薬品は、臨床試験を経て国の承認を受けた後に市場に出ますが、ヘルスケア製品には、そのような明確な基準がなく、科学的根拠の乏しい商品が多く流通しているという課題があります。この状況下では消費者が適切な商品を選びにくく、また、優れたヘルスケア産業が育ちにくいという問題が生じます。そこで、マゼラン湘南佐島

では様々な製品を組み合わせながら試し、客観的に評価し、安心して製品を活用できる環境を提供するために、フィールド実証事業を行っています。

—フィールド実証を通じて、どのような課題を解決したいとお考えでしょうか。

医薬品は、病気を治すことが目的であるため、最も重要なのは「有効性」です。しかし、ヘルスケア商品は、日常生活で使われるため、使いやすさや継続しやすさも重要な評価ポイントとなります。ヘルスケア商品は、長期的に体と心と脳を整えるものなので、企業の自己評価だけでなく、中立的な評価基準を持つことが不可欠ですし、また、社会全体に与える影響を多面的かつ長期的な視点で評価する必要があります。そして、社会実装を進めることも重要な目的の一つです。社会実装とは、単に新技術やサービスを試すだけでなく、それが社会の仕組みに自然に溶け込むことを意味します。特定の環境での実証にとどまらず、社会全体の生活スタイルにどう組み込めるかを考えながら実証を進めることで、実際の普及につなげる狙いがあります。例えば、マゼラン湘南佐島に住む方々は、自然体で健康的な生活を楽しむことを求めています。そうした環境の中で、新しいサービスや商品が意識せずとも自然に取り入れられることで、その効果を検証できるだけでなく、利用者の意識や生活習慣にも変化が生まれ、新たなイノベーションが生まれる可能性があります。私たちは、こうした自然な変化の連鎖にも期待しています。

—最後に、今後目指していく未来像について教えてください。

私たちは「いのちがやく」を理念とする中で、具体には「健歩快働(けんぽかいどう)」というビジョンを掲げています。これは、「健やかに歩き、快活に働く」という意味ですが、ここでの「働く」とは、単なる仕事ではなく、人生における目的やテーマを持ち、それに向かって生きることを指し

ます。人間は「何のために生きるのか」という目的や意味を見出しながら生きる存在です。そのため、自分らしい生き方を見つけることが、充実した人生を送るために大切だと考えています。未病に関する取り組みとして、特に「勤労世代の生活習慣病の未病改善」と「高齢者のフレイル・認知症の未病改善」の2つの領域に重点を置いています。認知症の未病改善には「社会参加」が有効とされていますが、80歳を超えてから急に社会参加を始めるのは難しいのが現実です。そのため、若いうちから社会とのつながりを持ち、それを継続することが重要になります。今後は、医療との連携を深めながら、個人が自らの力で健康を維持し、自己実現できる環境づくりを進めていきたいと考えています。ただし、健康そのものが最終的な目的ではなく、最も大切なのは「生きがい」です。健康はその手段であり、「自分らしく充実した人生を送ること、いのちがやく」こそが重要なのです。この目標を実現するためには、産業(企業)・学術機関(大学)・行政(自治体)、社会(市民)、産学公民の連携が欠かせません。企業は、新しい技術やサービスを提供し、大学や研究機関は、それを社会に適応させる研究を進め、行政は、これらの活動を支援し、普及を促進します。また、市民との対話活動が大切で、若い世代の発想やエネルギーも大きな役割を果たします。学生たちのアイデアや情熱が、社会に新たなイノベーションを生み出す原動力となるでしょう。

私たちは、こうした連携を強化しながら、「健歩快働」の理念のもと、より良い未来を築いていきたいと考えています。

神奈川県 政策局
いのち・未来戦略本部室
参事監 未病推進ディレクター

牧野 義之氏 まきの よしゆき

神奈川県が推進する『未病』に関する指標の活用や、産業振興や戦略を担当。医療と予防の間に位置する『未病』の概念を広めるため、産学公民連携を推進する。